

1 背景・目的

- ・デジタル化の浸透によって人々が対面で会う機会が減っている
- ・地域のつながりが弱くなりつつある

↓
宇都宮市の新たな交流の場であるライトキューブ宇都宮を活用し
コミュニティが活動しやすい空間作りを目指す

2 テーマとの関連

ほっこりした宇都宮～デジタル社会における温かい人間関係～

- ・デジタル化の浸透によって人々が対面で会う機会が減っている
- ・一方でSNSなどを通じたコミュニティは拡大している

↓
コミュニティが集う空間をつくることで対面で会うことができ、コミュニティの強化が期待でき、デジタルと対面の両方の利点を得られる

3 現状分析

3-1.ほかの地域における交流の場

- ・おひさまテラス 多世代交流施設
- ・UMECO 市民や多様な団体などが交流・連携する施設

事例の共通点（おひさまテラス・UMECO）

[1] 設計思想の一貫性

両施設とも市民のやりたいことを実現する場や多世代交流を促す施設である

[2] 予約システム・情報提供

個人でも直感的にわかりやすく、視覚的に整理された予約システム、料金や条件がわかりやすく把握できる構造

ライトキューブ宇都宮

[1] 設計思想

主にMICE推進施設としての位置づけ
市民利用は副次的扱いである

[2]予約システム・情報提供

MICE事業を主とするため説明や手続きが複雑

3-2.ライトキューブ側の意図

- ・ライトキューブ運営側

個人利用推進は施設の仕事であり、個人利用を促すつもりはある

- ・宇都宮市役所MICE推進課のスタンス

ライトキューブ宇都宮はMICE推進を目的としており、個人利用では周辺施設の利用が見込めないため積極的に個人利用を推進するつもりはない

3-3.活用の上での課題

- ・ライトキューブ利用状況の切迫

学会や企業などが数カ月以上前など事前に予約しているケースが多いため、個人が数日前などに申請しようとすると枠を抑えるのが難しい

- ・市民からの印象

宇都宮大学の学生への調査で、個人利用が可能であることの知名度の低さ、きれいだが近寄りがたいという印象が明らかになった

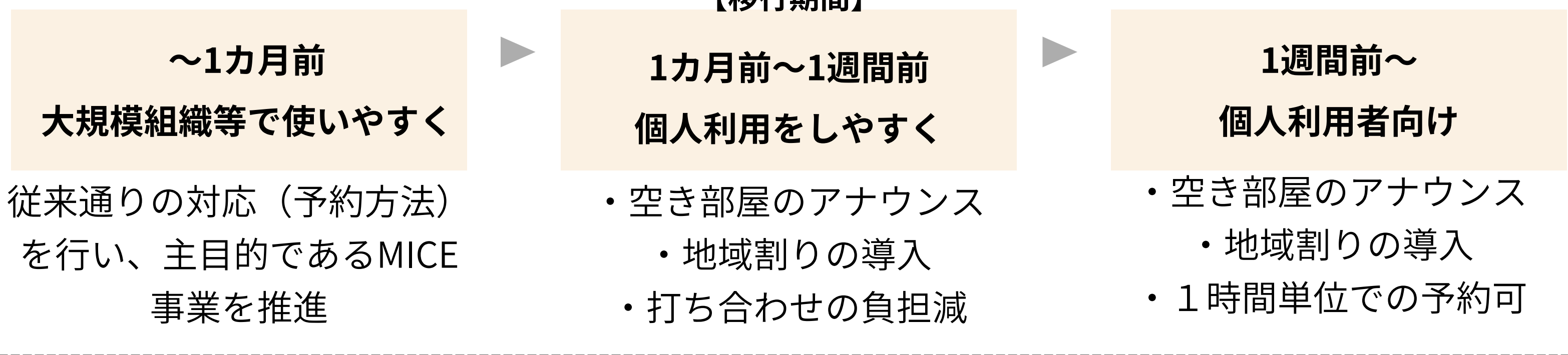
5 提案

ライトキューブ宇都宮はMICE事業を主目的としている/運営側には個人利用を歓迎する姿勢が見られた
→積極的な個人利用推進の提案ではなく、市民が利用したいときに利用できる環境を



①個人利用促進のための提案

提案：予約期間におけるターゲット層のグラデーション付け
企業や学会等の予約は数年前～数カ月前に行われることが多い➡直前でも空いている部屋を個人利用してもらう仕組みづくり



②システム面の改善

提案：実際に使いやすくするために4点を改善

【1】空き状況の即時確認を可能に

①カレンダーにて日付選択

月	火	水	木	金	土	日

②予約状況確認・選択

	朝	昼	夜
大ホール	○	×	○
中ホール	○	×	×
会議室1	○	×	○
会議室2	×	×	○
会議室3	○	×	×
会議室4	×	×	×

1カ月前から各部屋の空き状況を視覚的に確認できるカレンダー表示を導入

【2】予約手続きの簡略化

複雑な手続きを簡略化する

対面による

事前打ち合わせ

電話やオンライン等で当日対応
（個人利用かつ小会議室利用者に限る）

口座振替のみの

支払い方法

現金・クレジットカードなど
多様な支払方法に対応

- ・複雑で最低でも数日かかっていた手続きを1日で完結する仕組みづくり

③具体的な活用方法案

提案：今回提案した改善によって実現が期待される活用事例

①ライトキューブで同窓会！

- ・アクセスが良いため集まりやすい
- ・とくにお盆時期は企業の予約が少なく予約が取りやすい

②ライトキューブで映画上映会！

- ・SNSで集客すれば既存のコミュニティではなく新たなコミュニティ構築が期待できる
- ・映像設備が揃っているため負担が少ない

③ライトキューブで地域の文化祭！

- ・地域の店や市民からブース出展者を募り学校の文化祭のようなイベントを行う
- ・出展者同士でも参加者同士でも、新たな交流の発生が期待できる

【3】個人利用者に向けたガイドラインの作成

初心者にもわかりやすく利用手順を示し手厚いサポート体制を提供

【4】SNSを活用した広報

SNSを活用しライトキューブ宇都宮における個人利用のイメージを広める